

研究活動

平和と開発のための実践的知識の共創

2020年4月1日より、JICA研究所はJICA緒方貞子平和開発研究所(略称：JICA緒方研究所)に名称を変更しました。2008年の研究所設立に尽力された緒方貞子元JICA理事長の理念を継承し、開発途上国が現場で直面する課題について政策志向の研究を行い、国際社会における日本の知的プレゼンスの強化を目指して研究業務に

取り組んでいます。

さらに、日本の開発経験や開発協力実施国としての知見を体系化して発信するとともに、新型コロナウイルス禍後の世界のあり方、国際秩序の変化、情報社会への転換、気候変動や感染症などの今日的な課題や脅威も踏まえて、研究・発信活動のさらなる充実に努めています。

研究の基本方針

- (1) 国際的な学術水準の研究を行い、積極的に発信する。
- (2) 現場で得られた知見を分析・総合し、事業にフィードバックする。
- (3) 人間の安全保障の実現に貢献する。

重点研究領域

SDGsの5つのP (Peace、People、Prosperity、Planet、Partnership)に対応した研究を展開しています。



平和構築と 人道支援

人間の安全保障と平和構築を研究の2つの柱としています。持続的な平和の促進要因や阻害要因を分析し、また、人間の安全保障における保護とエンパワメントの関係を探求することで、人道対応や持続的な開発・平和に従事する多様な主体による、有効な支援のあり方を探ります。



人間開発

すべての人に対する良質な教育、保健サービスへのアクセスの保障とエンパワメントを視野に、低所得国における留学のインパクト研究、日本の教育協力の歴史の分析、新型コロナウイルス対策とユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)*および強靱な社会に関する研究などに取り組みます。



経済成長と 貧困削減

貧困は根本的な課題であり、また包摂性、強靱性などを兼ね備えた質の高い成長が求められています。成長と貧困削減の両立を意識し、「質の高い成長」の概念の体系化、インフラや農業支援の実証分析、経済・生活に重要な金融の研究などを、介入・非介入の比較分析手法も取り入れて行います。



地球環境

環境・気候変動への対応が重要課題となるなかで、SDGsへの取り組みや気候変動への対応に向けた研究を実施します。気候変動適応策案件の経済的評価手法の検討、環境影響評価に関する研究のほか、ASEAN諸国を対象にした環境・気候変動に関する政策提言につながる研究を行います。



開発協力戦略

JICA事業・戦略の方向性を導く研究を行います。日本の開発や開発協力の経験を振り返り、その特徴を探ります。また、他国の研究者とのネットワークを構築し、国際協力の潮流形成に貢献する研究や、スポーツと平和など新たな研究課題、分野横断的な課題にも挑戦します。

*「すべての人が、生涯を通じて健康増進・予防・治療・機能回復に関する基礎的なサービスを、必要なときに負担可能な費用で受けられること」を示す概念。

2020年11月2日、緒方貞子元JICA理事長追悼記念シンポジウム「With/Postコロナ時代のグローバルな課題と人間の安全保障」をウェビナー形式で開催。グテーレス国連事務総長などからもメッセージが寄せられた。コロナ禍において変化する脅威に対応した人間の安全保障の概念の重要性とその実現のための手段を発展させる必要性について約1,200名の参加の下、議論が行われた



2020年度の成果

基本方針や重点研究領域に基づき、2020年度は27の研究プロジェクトを実施し、その成果の発信に努めました。

研究成果の発信

8本のワーキング・ペーパーと「バングラデシュにおける社会経済発展」をテーマとしたポリシー・ノートを発行しました。

また、和文書籍が5冊、英文書籍が2冊刊行されました。学術書籍としては、シリーズ「日本の開発協力史を問い直す」の第1巻『日本型開発協力の形成—政策史1・1980年代まで』と第5巻『インフラ協力の歩み—自助努力支援というメッセージ』を発行。日本の開発協力の軌跡を振

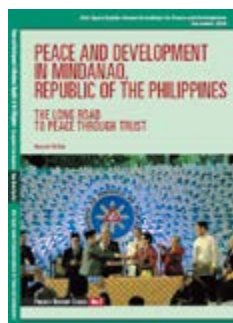
り返り、欧米諸国が主導してきた国際開発規範とは違う日本型アプローチの意義を示しています。『途上国の産業人材育成—SDGs時代の知識と技能』では、技能習得や生産性向上などの産業人材育成の課題を取り上げました。既刊の和文書籍の英訳版『SDGs and Japan: Human Security Indicators for Leaving No One Behind』では人間の安全保障を指標化し、国際的な議論への貢献を目指しています。

日本の途上国開発への貢献を長期的な観点から分析する一般向け「プロジェクト・ヒストリー」シリーズの第26・27弾として、コンゴ民主共和国でのつり橋建設、パキスタンのノンフォーマル教育を取り扱った2冊の和文書籍に加え、シリーズ第25弾の英訳版『Peace and Development in Mindanao, Republic of the Philippines—The Long Road to Peace through Trust』も刊行しました。

このほか、研究成果は学術誌、学会発表などを通して発表されており、学識者に広く共有されています。

コロナ禍における発信強化

また、従来対面で行われていたナレッジフォーラムなどの各種セミナーをオンラインで実施。コロナ禍における国際協力のあり方や人間の安全保障など、今日的なニーズに応じたテーマで23件のオンラインセミナーを開催しました。



2020年度に刊行された書籍から